

個別指導の新たな可能性を広げるベスト個別学院

株式会社 Global Assist が運営するベスト個別学院は、指導法、カリキュラムなど改革を進め、更なる高みを目指している。今回はその取り組みについて、同社代表取締役社長の井関大介氏とベスト個別学院白河中央教室クラスマネージャーの三森早苗氏に話を聞いた。

地域の教育とオンライン英会話

——白河中央教室の周りほどのような地域になりますか？

三森 地域には県立高校が3校しかなく私立校はないため、高校受験は3つしかない高校への対応が主になっています。郡山にある私立高校も通うには電車で約1時間かかり、そういったことから県立志向が高い地域になっています。

——郡山まで通っている高校生はどのくらいいますか？

三森 少ないですね。できれば白河圏内で通いたいという子供たちが多く、競争意識は高く、勉強に対する意識も高いと思います。でもここ2、3年ぐらいから高校受験の倍率が低くなるとともに、学校外での学習へ

の意識が下がったことで、小学生の通塾率が下がっていた時期がありました。しかし、今年はずごく意識が高まっています。学校で全国規模の模試があり、その成績が良くなかったようで、小学生が春に例年の倍くらい増えました。

——オンライン英会話のGLOBAL CROWN(以下、グローバルクラウン)を導入したのはいつ頃からですか？

三森 昨年の春です。導入した理由の一つが、夕方の先生の確保が難しいことです。また、導入当時は、大学入試で英語のスピーキングテストが行われる流れだったので、少しずつ知見を増やさないといけないと思い始めました。結局、共通テストではスピーキングテストが行われないことになってしまいま

したが。

また検討段階では、社内から「外国人講師と日本人講師のどちらがいいのか？」という議論が上がっていました。グローバルクラウンの講師はバイリンガルの日本人が多いのですが、私としてはそれが良かったと考えています。生徒たちにとって

は、ネイティブの先生に比べるとバイリンガルの先生の方が抵抗感はないよう、試験的に導入していた際にも、「絶対これがいい！」という声が複数の生徒から挙がっていたことが決めの一つとなりました。

小学校英語と中学校英語

——オンライン英会話(小学生)での学習は、定期試験や学校の授業の進み具合に合わせているのですか？

井関 あえて合わせていません

自分で調べて解いてみて、それでもわからなかったら先生が解説をするという形が成績アップには重要だと考えます。

それまでは、先生1人に対して生徒3人でした。教える授業をしていたのですが、先生が1から10まで教えてしまうので、授業の時は理解しても家に帰ったあとは忘れてしまつて解けなくなつてしまう状況があり、宿題も「解けませんでした」と持つてくる子がいました。でも今は、自分で調べる習慣がついているので自分で学習を進めることができますようになっています。成績も演習量が増えたことで確実に上がっています。

——この改革を起点にさらに変わって行きそうですか？

井関 授業の内容だけでなく、組織自体も今後2年ぐらいいでものすごく変化する



Global Assistの井関大介代表

ん。小学校と中学校では英語教育の思想がまったく異なっていることが大きいです。本当は中学生コースにも大学入試にスピーキングテストが入るのであれば、何かコンテンツを作ろうと考えていたのですが、なくなつてしまったので、今後は目標を英検に切り替えていく予定です。

三森 これからは使える英語が絶対に必要になりますし、使える英語を学ばないと意味がないと思います。私自身、2年前にセブ島に1週間ほど語学留学したのですが、難しいことを言ってい

と思います。私たちはトップダウンの組織運営をしているわけではありませんが、新しいモデルづくりにあたっては、どうしてもトップダウンにせざるを得ない時も。平時と有事の違いで、今のコロナ禍は有事ですからトップダウンで運営をしていた面もあります。ですが、来年からもう一度、社員全員が意見を出し合いながら、さらなる飛躍ができるように取り組んでいきたいと考えています。



ベスト個別学院白河中央教室の三森早苗クラスマネージャー

ないのに、私が話した単語が一つも通じないという苦い経験をしました。帰ってから調べてみると、小学校のうちから習うとナチュラルな発音ができるようになるそうなのですが、大人になつてから発音を学ぶと日本語的なイントネーションになつてしまい、直すことが大変だということがわかりました。保護者とお子さんには、私のこの時の経験もお伝えして、「まずは聞いて真似をするだけで構わないので、英語をやってみませんか？」と勧めています。生徒はバイリンガルの先生の発音を聞いているので、お母さん方は自分の子供がお

うちで英語を喋ったときの発音の美しさにびっくりされています。

——小学生から中学生へのカリキュラム連携はされていますか？

井関 基本的にベスト個別学院は定期テスト対策に強い塾で、中学生になると算数が数学になり、英語も定期テストのための英語になるので、カリキュラムは連携させていません。小学校と中学校のカリキュラムを連結すると、中学生の指導方のコントロールが複雑になるからです。小4入会と中1入会の学力格差、例えばテスト対策のオペレーションとかが、あまりに幅がありすぎると適切な指導に結びつかない。だから、中学校の定期テスト対策だと割り切っている方が、塾としてはパッケージにして提供しやすいということがあります。



「バイリンガル講師がいい」という生徒たちの声からオンライン英会話「GLOBAL CROWN」を導入することになった

新たな改革と今後の展望

——今後どのような展開を考えていますか？

三森 3年前から映像授業を使いながら、1人の先生が生徒6〜9人ぐらいを見ているのですが、説明は映像のみで完結する仕組みにしました。そうすると、先生たちの手が空くので、生徒が説明を理解できなかつたところの解説などフォローに回ることができます。生徒には



ベスト個別学院では小学校と中学校の英語カリキュラムはあえて連携させていない